

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名 (双ヶ丘中学校)

教育目標

「自ら学び、未来を創造できる生徒の育成」 ～楽しくなければ学校ではない～

年度末の最終評価

自己評価 教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

教職員だけではなく、生徒会も含め、事あるごとに教育目標にある「楽しくなければ・・・」をキーワードに様々な取り組みを行うことができた。総合的な学習の時間では、3年を経過したテーマ「防災」の見直しを1年生から行っている。今住んでいる地域を知ることから始め、この地域で起こる災害を想定し、中学生として何が出来るのか、何を提案できるのかを考える新たな仕組みを構築中である。学習面においては、全国学力・学習状況調査の平均正答率は、2教科とも全国平均より上回っており、また、領域別や観点別、解答の形式別にみても、ほぼ全てで全国平均を上回る結果となった。本校の課題でもあった自己肯定感も向上傾向にあり、アンケート結果から良い結果となっている。授業改善や指導等、日々の積み重ねによる結果だと考えられるため、次年度以降も生徒の未来をともに創造する教職員であることを目指していきたい。

学校関係者評価 学校関係者による意見・支援策

教員の働き方改革については、喫緊の課題であることは承知している。教員が健康でストレスなく働き、生徒たちを育てる環境が良いのは承知している。保護者も全てを学校に任せる風潮があり、これを何とかしなければ本当に大変である。部活動地域移行も含め、地域が協力しなければならない。PTAの非加入率の増加は、町内会でも起きていることである。時代が変わってきているため、我々の考えも改めなければならない。協力はするので、地域と一緒にこれからの未来を生きていく生徒を育成していきましょう。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月18日	学校運営協議会理事
最終評価	令和7年2月14日	学校運営協議会理事

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

- ・ロイロノートを活用し、双方向の学習形態を積極的に取り入れ、生徒が身につけた知識や技能を活用する場面を設定して、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・GIGAスクール構想のもと、タブレット端末を活用した学習（家庭学習含む）に積極的に取り組む。
- ・学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果から本校の学習課題を明確にし、学習指導要領を踏まえ、各教科・領域の指導と評価の一体化を意識した授業改善を図る。
- ・各教科の指導と評価の一体化を意識したテスト問題の作成および教科会の充実を図る。
- ・探究活動を意識した授業展開を充実させ、主体的に学習に取り組む力を身に付けることで、学習意欲の喚起を図る。

具体的な取組

- ①授業において「めあて」や「見通し」の確認と、それに対応した「まとめ」を的確に行い、学習の「振り返り」により、生徒自身が自分の学習を評価（価値や意義）することを徹底する。
- ②教科指導の在り方として、学習確認プログラムやテスト等の結果を分析し、課題を明確にした授業改善やテスト問題作成に取り組む。
- ③授業力向上を図るため、研究授業や研修会への積極的な参加を促し、研修会で得た成果を伝達研修し、教職員間で共有を図る。
- ④教員が相互に高めあうための授業観察および指導助言を行うとともに、若手・中堅教員実践道場など、OJTを取り入れた研修を充実させる。
- ⑤ミライシードを各教科において家庭学習課題に設定したり朝学習の課題として定着を図る。

（取組結果を検証する）各種指標

（指標）

- ・授業改善による生徒の変容
- ・学習確認プログラムの結果
- ・ミライシードの生徒カルテ
- ・研究授業等の研究協議（指導主事からの授業評価）
- ・教職員との面談
- ・アンケート結果

（アンケート項目）

- ・授業の内容はよくわかりますか（生徒向け）
- ・授業のねらいや評価の方法などをはっきりと伝えてありますか（生徒向け）
- ・授業では、どのくらい「自分のタブレット」を使っていますか（生徒向け）
- ・予習復習など、自主学習ができていますか（生徒向け）

中間評価

各種指標結果

◆令和6年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率（％））

国語：本校 64 京都府 59 全国 58.1
数学：本校 58 京都府 53 全国 52.5

◆学習確認プログラムの結果（平均正答率（％））

○3年 1st Stage・・・総合：本校 54.0（全市 53.3）

国語：58.8（56.4）、社会：50.6（47.0）、数学：47.4（45.7）、理科：53.2（50.1）、英語：59.0（55.7）

○2年 Pre-Stage1・・・総合：本校 56.7（全市 55.7）

国語：61.0（60.1）、社会：56.3（49.0）、数学：49.7（48.9）、理科：46.1↓（49.8）、英語：55.7（53.0）

◆全校生徒対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（％）） *矢印は昨年度との比較

○授業の内容はよくわかりますか（道徳除く10教科平均）

5（よくわかる）：41.2% **4**：30.0% **3**：19.4% **2**：6.2% **1**（わからない）：3.4

○授業には積極的に参加していますか

はい：54.5% **どちらかといえば、はい**：39.0% **どちらかといえば、いいえ**：5.5% **いいえ**：1.0%

○授業を通して、コミュニケーション能力が身についた

5（出来ている）：37.1% **4**：30.5% **3**：21.5% **2**：6.2% **1**（出来ていない）：4.7%

○授業のねらいや評価の方法などをはっきりと伝えてありますか（10教科平均）

5（そう思う）：59.1% **4**：23.6% **3**：12.9% **2**：2.6% **1**（そう思わない）：1.9

○授業では、どのくらい「自分のタブレット」を使っていますか（10教科平均）

5（よく使っている）：22.9% **4**：23.7% **3**：23.8% **2**：13.2% **1**（使っていない）：16.4%

○タブレットを使うことで学習に役立っていると思いますか

はい：61.3% **どちらかといえば、はい**：34.2% **どちらかといえば、いいえ**：2.3% **いいえ**：2.2

○予習復習など、自主学習ができていますか

	<p> はい : 34.4% どちらかといえば、はい : 39.2% どちらかといえば、いいえ : 18.6% いいえ : 7.8% </p> <p>○宿題や課題をきちんと提出している</p> <p> 5 (出来ている) : 44.8% 4 : 27.5% 3 : 16.1% 2 : 6.9% 1 (出来ていない) : 4.7% </p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業における「めあて」と「振り返り」は各教員が意識して取り組んでいる。特に、単元や題材における「めあて」の設定と「振り返り」の実施に力を入れている。ただし、「めあて」に対応する「まとめ」は生徒自身が行う場合と教員自身が行う場合が混在している。 ② 学習確認プログラムの分析を各教科会で実施し、専用の分析シートを用いて3年間を通して学力の変遷を残している。分析が分析だけに終わり、具体的に十分な活用まで来ていない教科もある。 ③ 管外やオンラインも含めた研究授業や研修への参加を呼びかけ、研修後の伝達研修も実施予定である。 ④ 公開授業週間では、同一教科と他教科の授業を少なくとも1つ観察するようにしている。また、若手教員の年次研修の指導案検討を教科会で検討をしたり、研究主任との協議を進めることで、授業力の向上に努めている。 ⑤ 毎週金曜日に朝学習としてミライシードに取り組ませているが、授業内でのタブレット端末の活用場面がまだ半数と少ない。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「めあて」と「振り返り」、「まとめ」の在り方について、学習指導委員会で議題に上げ、各教科会で共有するようにしていく。 ② 学習確認プログラムの分析の方向性を変えていく必要がある。誤答の傾向性などを各テストから見つけ出し、授業改善につなげる。 ③ 学習指導委員会や、若手道場等を随時開催し、教員が研修会や自己研鑽の上で、学んだ見識を共有できる場をもっと創出する。 ④ 公開授業週間の設定する期間を、年間行事予定の段階から工夫をする。また、複数教科の授業参観ができるように、校務量も調整しながら、組織的に公開授業週間に取り組んでいく。 ⑤ 朝学習にてミライシードに取り組む日を増やす。例として、試験一週間前に10分間の朝学習時間を作り、より子どもがミライシードに多く触れる機会を作る。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科会の充実 ・学力調査や確認プログラム等の各テストの詳細分析 ・校内研修等の協議内容 ・秋の公開授業週間のアンケート結果 ・ミライシードの活用状況
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体落ち着いて授業が出来ていることは良い。 ・学力についても全国調査の結果は高く、教員の努力が出ていると思う。 ・ICT活用については、授業でしっかり活用されているようである。今後はどのような効果があったかなどの検証結果も教えて欲しい。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5教科全てが時間割内に設定でき、定期的に行うことができた。 ・学習確認プログラムの結果（平均正答率（%）） <p>○3年 2nd Stage…総合：本校 52.5（全市 52.3）</p>
--	---

	<p>国語：49.1 (50.0)、社会：49.1 (49.7)、数学：51.6 (51.6)、理科：49.6 (47.8)、英語：61.7 (62.1) ○2年 Pre-Stage2…総合：本校 49.9 (49.6)</p> <p>国語：50.9 (51.4)、社会：56.7 (44.8)、数学：43.0 (44.0)、理科：47.9 (50.2)、英語：49.0 (51.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究部を中心に、PDCA サイクルを使った学力調査や確認プログラム等の分析を行った。 ・若手とベテランが各自でそれぞれの授業改善方法や教材研究等で工夫している内容を共有できた ・全学年、週末にはミライシードを活用した朝学習を実施
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「振り返り」、「まとめ」の在り方について、学習指導委員会で議題に上げ、各教科会で共有することができた。 ・学習確認プログラムの分析の方向性を変えるために、学習指導委員会で議題に上げたが、授業改善への方向性は見い出せていない。 ・学習指導委員会や、若手道場等を開催することができた。 ・公開授業週間に、複数教科の授業参観ができるように、校務量も調整しながら、組織的に公開授業週間に取り組むことができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通した授業づくりに引き続き取組み、生徒につけたい力を意識した授業づくりの実践。 ・学習確認プログラムの分析の方向性を変えるために、学習指導委員会で引き続き議題に上げる ・学習指導委員会や、若手道場等を随時開催し、教員が研修会や自己研鑽の上で、学んだ見識を共有できる場をもっと創出する。 ・公開授業週間の設定する期間を、年間行事予定の段階から工夫をする。また、複数教科の授業参観ができるように、校務量も調整しながら、組織的に公開授業週間に取り組んでいく。 ・ミライシードに取り組む日を増やす。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>教科や学年によってばらつきはあるが、学力については例年通りと聞く。10年以上前と比較すると学力低下が見られるようだが、原因の特定は難しいのだろうか。入学の時点から3年間で学習確認プログラムの平均は上昇傾向のようなので安心だが、しっかりと進路補償できるようにこれからもお願いしたい。</p>

（２）「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の時間を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図る。 ・様々な場面を通して、規範意識の育成を図る。 ・自尊感情（自己肯定感や自己有用感）や自己指導能力・共感能力の育成を図る。 ・いじめや暴力を許さない生徒を育成する。
<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「考え、議論する」道徳指導の充実を図り、生徒間の意見交換を大切にする場の設定や教材を工夫した道徳の時間を進める。 ②道徳の評価についても研修を深めて、生徒の意識を高める評価を実践する。 ③「挨拶ができる 時間を守れる 人の話をしっかり聴ける」など、ルールを守り、他人を尊重する活動を生徒会活動の中心として取り組む。そのためにも、教職員は意識して実践する。 ④自己有用感等の自尊感情を高めるため、生徒の主体的な活動を重視するとともに、集団の一員として責任を果たし、自分への自信を深める取組を進める。また、体験的な学習や行事的な学習を中心に、ひとりひとりの生徒に成就感を持たせる。 ⑤生徒の人権感覚を高め、他者を思いやる気持ちや生命の尊厳を育む心の教育を学校全体で推進する。また、いじめ防止対策となる道徳的資質を培うための教材研究や人権啓発活動の取り組みを行う。

⑥華道体験を通して、伝統文化を受け継ぎ伝える取組を推進する。

⑦各学年の代表生徒が全校生徒の前で自分の思いや考えを発表する「トークイン双ヶ丘」を実施して、生徒の発表する力と聴く力の育成を図る。そして、他者の意見と自分の意見を調整してより良い合意を目指す視点を持たせる

(取組結果を検証する) 各種指標

(指標)

- ・ 道徳の取組による生徒の変容 (参観者からの授業評価)
- ・ 生徒会活動による生徒の相互評価
- ・ キャリアパスポート等取組のまとめの記載内容
- ・ アンケート結果

(アンケート項目)

- ・ 頭と心を使って考えることができている (生徒向け)
- ・ 思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか (生徒向け)
- ・ 自分自身を大切にしていますか (生徒向け)
- ・ 学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか (生徒向け)
- ・ お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか (保護者向け)
- ・ お子さまは、自分自身を大切にしているように見えますか (保護者向け)
- ・ お子さまは、ボランティア活動など社会のために役立つことをしていますか (保護者向け)

中間評価

各種指標結果

◆全校生徒および保護者対象 学校評価アンケート抜粋 (回答率 (%)) * 矢印は昨年度との比較

○頭と心を使って考えることができている (生徒向け)

5 (出来ている) : 65.1 \searrow **4** : 19.8 \nearrow **3** : 11.9 \searrow **2** : 1.2 \nearrow **1** (出来ていない) : 2.0 \nearrow

○思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか (生徒向け)

はい : 73.1 \nearrow **どちらかといえば、はい** : 24.9 **どちらかといえば、いいえ** : 1.5 \searrow **いいえ** : 0.5 \searrow

○お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか (保護者向け)

はい : 51.7 \searrow **どちらかといえば、はい** : 45.3 \nearrow **どちらかといえば、いいえ** : 3.0 **いいえ** : 0.0

○お子さまは、ボランティア活動など社会のために役立つことをしていますか (保護者向け)

はい : 3.8 \searrow **どちらかといえば、はい** : 23.4 \nearrow **どちらかといえば、いいえ** : 45.3 \searrow **いいえ** : 27.5 \nearrow

○自分自身を大切にしていますか (生徒向け)

はい : 67.3 \searrow **どちらかといえば、はい** : 26.9 \nearrow **どちらかといえば、いいえ** : 5.0 **いいえ** : 0.8 \searrow

○お子さまは、自分自身を大切にしているように見えますか (保護者向け)

はい : 52.8 \searrow **どちらかといえば、はい** : 43.0 \nearrow **どちらかといえば、いいえ** : 3.8 \searrow **いいえ** : 0.4 \searrow

○学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか (生徒向け)

はい : 61.8 **どちらかといえば、はい** : 30.6 \nearrow **どちらかといえば、いいえ** : 5.8 \searrow **いいえ** : 1.8 \searrow

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・「思いやりの心をもって、同級生や～」の項目が上昇傾向にあるものの、保護者の認識とは少し差があるように見える。概ね、道徳の授業が生徒たちの心に良い影響を与えていることには変わらない。 ・集団生活においても、ルールやマナーを守るなどの基本的な行動には大きな問題はない。しかし、本校の以前からの課題であるボランティア活動については、上昇傾向ではなく、大きな変化は見受けられない。 ・地域行事もほぼ復活している中、中学生を見かけることは確かに少ない。習い事等も原因かもしれないが、町内会から退会する家庭が増えている現状、地域との繋がりが希薄になっていることも一つの要因ではないだろうか。 ・これからの時代、自己有用感を得る場面を積極的に設定する必要があるかもしれない。秋の大きな学校行事も終わり、それぞれで達成感を得た表情がある。 ・今後はトークイン双ヶ丘の準備も含め、行事を通して得たものをどのように活かして発表していくか、教科等を通じて学ばせていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の中では、発問を充実し、ロールプレイングやローテーション道徳などを行い、より充実した授業を行う。 ・学校行事等を通して、多くの生徒が活躍できる場面を考慮していく。 ・振り返りでは、生徒の目標や努力を、生徒それぞれの基準から評価し認める。 ・総合的な学習の時間とも連携しながら、地域に向けた活動がボランティア活動へ繋がる仕組みを考えていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や各教科の振り返り（ポートフォリオ等）シート ・キャリアパスポートやワークシートの記述内容 ・アンケート結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を見学したが、どの生徒たちの表情も生き生きとし、楽しんでいる様子がよくわかった。 ・双ヶ丘の生徒は落ち着いているため、地域でも特に苦情なども聞かない。高雄の生徒も楽しくやっているようでありがたい。 ・地域行事も復活してきているが、町内会の会員数が減少している。それに伴ってか、中学生の姿も少なくなっていると感じる。 ・部活動（和太鼓部など）が地域行事に協力してくれている。今後も無理にならない程度にお願いしたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 <p>道徳の授業だけでなく、総合学習の時間や人権学習でも自分事として物事を捉えているという感想が多かった。振り返りシートを見る限りは、授業内において考える力がついているように思えたが、SNSのトラブルが多いことなど、ネットリテラシーに関しては欠如しているように感じる。</p> <p>◆全校生徒および保護者対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））＊矢印は中間評価との比較</p> <p>○頭と心を使って考えることができている（生徒向け） 5（出来ている）：65.2[↗] 4：23.1[↗] 3：9.4[↘] 2：0.8[↘] 1（出来ていない）：1.5[↘]</p> <p>○思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか（生徒向け） はい：67.2[↘] どちらかといえば、はい：28.3[↗] どちらかといえば、いいえ：3.0[↗] いいえ：1.5[↗]</p> <p>○おひさまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか（保護者向け） はい：49.1[↘] どちらかといえば、はい：44.5[↘] どちらかといえば、いいえ：5.5[↗] いいえ：0.9[↗]</p> <p>○おひさまは、家族や友人、学級や社会のために役立つことをしていますか（文面変更・保護者向け） はい：24.8[↗] どちらかといえば、はい：60.5[↗] どちらかといえば、いいえ：13.3[↘] いいえ：1.4[↘]</p> <p>○自分自身を大切にしていますか（生徒向け） はい：63.4[↘] どちらかといえば、はい：29.3[↗] どちらかといえば、いいえ：4.5[↘] いいえ：2.8[↗]</p>
--

<p>○お子さまは、自分自身を大切にしているように見えますか（保護者向け） <input type="checkbox"/>はい : 48.2% <input type="checkbox"/>どちらかといえば、はい : 44.5% <input type="checkbox"/>どちらかといえば、いいえ : 6.9% <input type="checkbox"/>いいえ : 0.4%</p> <p>○学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか（生徒向け） <input type="checkbox"/>はい : 58.1% <input type="checkbox"/>どちらかといえば、はい : 31.3% <input type="checkbox"/>どちらかといえば、いいえ : 6.8% <input type="checkbox"/>いいえ : 3.8%</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の実態を踏まえた授業の展開を意識し、充実した授業を作ることができた。 ・学校行事を通して、多くの生徒が活躍する場面を設けることができた。 ・Forms を活用し、生徒それぞれの基準から振り返りシートを活用し評価することが出来た
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の指導内容と各教科および人権教育との連携を行う。 ・総合的な学習の時間では、道徳も含め、各教科との連携を図り、教科横断（カリマネ）の意識を持たせた取組を考える。 ・生徒の実態を考え、SNS 関連やネットリテラシーについてさらに取り上げる必要がある。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>SNS などのネットの使い方については、大人より子どもの方が遥に長けている。そのような現状において、学校での教育は常に新しいものでなければならない。しかし、我々大人が知らないようなアプリなど追いついていけない状況である。先生方も常にアンテナを張りながらとなるが、保護者も子どもの状況をしっかりと把握していく必要がある。</p>

（３）「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動を推進する。 ・基礎体力の向上や基本的生活習慣の確立に向けた指導を推進する。 ・安全教育（生活・交通・防災）や環境教育の充実を図る。
<p>具体的な取組</p> <p>①基本的生活習慣の確立をさらに目指し、学校と家庭が連携し、運動・食事・睡眠などの生活習慣を子供たちが規則正しく身に付けるため、保健室だより等活用し取組みを推進する。</p> <p>②体力テストの結果を分析し、課題を明確にした体力向上年間計画を策定し、取組みの推進を図る。</p> <p>③中学生の健康・安全に対する課題（薬物乱用防止、食育、性に関する指導、自転車交通安全等）への対応を含め、学校の教育活動全体を通じた体系的な学校保健・安全の充実を図る。</p> <p>④生徒のバランスの取れた生活や成長に配慮するため、部活動指導の見直しと充実を図る。</p> <p>⑤総合的な学習の時間で取り組んでいる「防災に関する学習」については、地域防災の視点で地域との連携を深める。</p> <p>⑥光熱費や校内の資源リサイクルや美化について、生徒から KES 学校版を積極的に発信していく。</p>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>（指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察などの取組記録や保健調査 ・健康診断の結果 ・新体力テストの結果 <p>（アンケート項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日は、何時頃に寝ていますか（生徒向け、保護者向け） ・平日は、何時間ぐらい寝ていますか（生徒向け、保護者向け）

中間評価

各種指標結果

◆健康診断結果

- 歯科検診：要受診となる生徒は少なく、虫歯による受診勧告は1.1%と非常に少なかった。（全校で5人）
- 検尿：春は一次検査で96%の提出率であったが、秋は90%と下がった。

◆新体力テスト結果

- 男子：1年生は全市と同様に、殆どの種目で全国平均より下回った。2年生は、握力、ボール投げ、反復横跳び、シャトルランが低いがその他では全国を上回っている。3年生は長座体前屈、シャトルラン、ボール投げが下回っている。
- 女子：いずれの学年も、全国平均より下回る項目が多かった。特に、1年生は立ち幅跳び、2年生はシャトルラン、3年生は長座体前屈が他の項目より低かった。

◆全校生徒および保護者対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））＊矢印は昨年度との比較

- 平日は、（お子さまは）何時頃に寝ていますか（上段：生徒向け、下段：保護者向け）

9時まで：4.0 10時頃：28.4↗ 11時頃：29.9↘ 0時頃：25.4↘ 1時頃：11.0↗ 2時以降：1.3↘

9時まで：1.5↗ 10時頃：32.8↗ 11時頃：42.6↗ 0時頃：17.0↘ 1時頃：3.0↘ 2時以降：0.4↘ 不明：2.7

- 平日は、（お子さまは）何時間ぐらい寝ていますか（上段：生徒向け、下段：保護者向け）

9時間以上：12.1↗ 8時間：35.4↗ 7時間：32.4↘ 6時間：16.3↗ 5時間：2.8↘ 4時間以下：1.0↘

9時間以上：4.5↗ 8時間：48.3↘ 7時間：37.4↗ 6時間：6.4↗ 5時間：1.1↗ 4時間以下：2.3↗

◆全国学力・学習状況調査（生徒質問紙より）

- 毎日、同じくらいの時間に寝ていますか

している：28.8↘ どちらかといえば、している：49.7↗ あまりしていない：19.0↘ 全くしていない：2.0↘

- 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

している：49.0↘ どちらかといえば、している：39.9↗ あまりしていない：9.2↗ 全くしていない：0.7↘

自己評価

分析（成果と課題）

- ・健康診断（歯科検診）結果や検尿等においても、健康に関しては家庭も含めた意識の高さがうかがえる。
- ・体調不良での保健室来室時の聞き取りから、生活習慣の確立は概ねできていると感じる。ただ、午前0時を過ぎての就寝になる生徒もあり、その理由が動画配信やゲームが原因であることに課題を感じる。
- ・新体力テストでは、男女とも多くの項目で全国平均より下回っていた。最近の傾向ではあるが、近隣公園でのボール禁止や持久走を伴う遊び、運動の不足などが要因ではないかと感じる。保健体育の授業でもこれらの体力向上を意識した工夫が必要である。
- ・生活習慣については、ある程度は規則正しい生活を送れているようだが、相変わらず睡眠時間が6時間を下回る生徒が20%近く存在する。習い事も遅い時間まで行っているようで、学校より家庭での協力が今後必要になってくる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・保健だよりを通して、健康に関するトピックスを発信していく。
- ・保健室来室時に個別に指導を行っていく。
- ・健康教育に関する取組の改善を図る
- ・保健体育の授業や部活動において具体的なトレーニングを取り入れる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・受診結果報告書の集約、健康観察の記録
- ・生徒や保護者からの聞き取り、担任との連携および学校保健委員会での意見集約
- ・生徒会（体育委員等）とも連携しながら体力向上の方策を提案
- ・総合的な学習の時間では、3学年共に地域に対して目をむけ取り組む事が出来たが学年によっては、地域に反映することが出来なかった。次年度は活動した内容を地域に反映できるように取組たい。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯に関しては、最近はいさいころから矯正などで関心が高く、それが良好な結果になっている。生活習慣についても家庭の意識が高いことは良い。しかし、動画配信などはどの家庭でも同じ問題。家庭での対策も一緒に考える必要があるのではないか。 ・習い事やスマホにより、寝不足が原因で体力面にも大きな影響があると思う。また、コロナ禍の運動不足もある。保健体育などで体力向上を目指して欲しい。
---------	---

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断における受診率については各科によって差があり、耳鼻科検診における受診率が最も高く30%となった。視力に関しても13%程度に留まってしまったが、受診した生徒は新たにメガネを作成したり変更したりしており、秋の検診では若干改善がみられた。 ・養護教諭と連携を図り、保健だよりを活用し健康に関する情報を生徒の現状を踏まえながら発信、教職員・保護者ともに周知してもらえた。また、個別に指導が必要(生活習慣など)な生徒には、担任と連携をとり保護者にサポートしてもらえるように家庭と連携をしてもらった。 ・体育委員会と連携し、体力テストの結果から改善点を分析。男女別各学年の補うべきトレーニングを考え授業で実践。この成果については、2025年度4月に行う新体力テストで結果を確認。2年生では、保健学習体育編と兼ね合わせて実践しているトレーニングを基に、さらに効果的なトレーニングが出来るように個人で考え実践。自分たちで考えることで生涯体育につながるように行っている。 ・総合的な学習の時間では、防災をテーマとして地域を知ること重点をおき、避難所生活での健康面等についてまで掘り下げるところまでいかなかった。 ・KESの取組みについては、環境委員会で昨年と同様、リサイクル等に関する取組ができた。
	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりは定期的に発行できたが、発信力に限界があり、工夫が必要。 ・来室時に直接保健指導を行うのが一番効果的だが、時間が限られているためなかなか難しい。 ・生活習慣においては、中間評価にもあったように“習い事”で帰宅が22時を過ぎる生徒が複数見受けられる。本人・保護者が納得してやっていることなので否定もできず、限られた時間の中で何を優先し、より健康に過ごせるために何ができるのかを考えさせたい。 ・学校保健委員会は今年度より書面開催となった。学校側の報告を行い、校医さんからの意見をどのように集約するのか今後検討していく。 ・自己の健康課題に対して保健学習や保健だよりの中で自分事にとらえ生涯健康で過ごすを基盤に考えることが出来た。また、体育の授業の中で体力テストの結果から補うべきトレーニングを考え実践する事は各学年全体で実践することは出来たが結果を年度内に検証することが出来なかった。次年度は検証まで行いたい。 ・安全教室での防災では今年度、教師側も実施日時を知らせずに行ったことで更に現実的な避難訓練が行うことができ、生徒だけでなく教師も意識を高めることができたと思う。
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だより配布の際、強調したいポイントを簡潔にまとめて担任に提示し、配布の際に指導してもらえるようにする。 ・保健室来室時、訴えのある症状以外にも目を向け、積極的に身体に関する事に触れていく。 ・生徒の生活改善や、防災に関する取り組みは、家庭との連携が必要不可欠なので、次年度は家庭との連携をとれる取り組みを考えたい。 ・総合的な学習の時間では、防災から避難所生活での健康状態をどう維持するか、3年間の学習で取り組めるようなカリキュラム編成を考えなければならない。 ・校舎の長寿命化も終わり、来年度からはKESの取組み内容も状況に応じて変更が必要である。
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>保健室の来室者が昨年より少なくなったことは良いが、受験等で気持ちの問題で来室が増えることは例年変わりため、毎年繰り返しとはなるが丁寧な対応を今後もお願いしたい。今年度の受験期には、どの学年もインフルエンザ等による学級閉鎖がなく、学校も家庭も感染対策をしっかりとされているのではと感じる。防災については、地域としては中学生を頼りにしている。充実した学習になって欲しい。</p>

(4) 学校独自の取組

重点目標

- ・学校教育目標達成に向けて、基礎基本の徹底から、主体的・対話的で深い学びへとつなげる取組みを推進する。
- ・総合的な学習の時間では、系統的な取組（防災をテーマ）を見直しながら確立し、より効果的に探究活動を行う。

具体的な取組

- ①ミドルリーダーが少ない中、次代のリーダーを育成できるように若手を中心とした組織の編成に取り組む。
- ②生徒が身につけた知識や技能を活用して、探究活動を行い、課題を解決するために共に学び考える力を、各教科はカリキュラム・マネジメントを意識して取り組む。
- ③生徒が身につけた知識や技能を活用・発表する場面として、行事の設定を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員との面談およびキャリアアップシートによる報告
- ・行事に参加していただいた方の感想や意見
- ・学校評価アンケート

中間評価

各種指標結果

◆教職員面談

- ・学校目標の「楽しくなければ学校ではない」には同感であり、生徒たちも我々も望んでいる。
- ・教育現場も大きく変わり、昔のやり方や指導法ではなく、今の時代に合わせることが大変と感じる。
- ・総合的な学習の時間の柱を明確化および修正しながら、本校の具体的な探究活動が少しずつだが見えてきた。

◆感想や意見

- ・以前のような学校行事が戻ってきて楽しみにしている。成長した子どもの様子を見る事ができありがたい。
- ・文化祭の学年発表が学習の成果であり、子どもが学習している内容がわかった。また有志発表など個人で発表する場面もあり見応えがあった。
- ・行事の精選や短縮を行わないで欲しい。

◆全校生徒対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（%））＊矢印は昨年度との比較

○授業を通して、コミュニケーション能力が身についた

5 (出来ている) : 37.1[↑] **4** : 30.5[↑] **3** : 21.5[↓] **2** : 6.2 **1** (出来ていない) : 4.7[↓]

○家族や友人、学級や社会のために役立つことをしていますか

はい : 55.0[↓] **どちらかといえば、はい** : 38.0[↑] **どちらかといえば、いいえ** : 6.0[↑] **いいえ** : 1.0[↓]

○学校行事や生徒会行事を通して、達成感や成就感を感じていますか（生徒向け）

はい : 61.8 **どちらかといえば、はい** : 30.6[↑] **どちらかといえば、いいえ** : 5.8[↓] **いいえ** : 1.8[↓]

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・ どの学校も若手中心の職場へ変わりつつある。ベテラン世代の考え（指導方法など）が届かない、または理解できない教職員が増えてきた感は拭えない。その反面、GIGA スクール構想など、新しいものに対する抵抗感は若手にはほとんどないが、ベテラン勢に多いと感じる。 ・ 防災をテーマにした総合的な学習の時間が3年目を迎え、各学年の指導計画の修正や新たな取り組みを取り入れるなど、持続可能な方向が見えてきた。 ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業を受けることができ、教師も意識した指導ができるよう研究主任が中心となり研修を実施している。 ・ ボランティア活動をしている生徒数が少ない傾向があり、社会に貢献という意識が低いように感じる。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ GIGA スクール構想を含め、これからの学校教育について、研究主任を中心とした校内研修をさらに充実していく。 ・ ベテランの大量退職が続く中、若手の早い段階から主任経験が必要である。また、研修の推進とOJTの充実を今後も取り組んでいきたい。 ・ 防災をテーマとした総合学習から学んだものを地域に広げたり、社会貢献の意識が高まるような仕組みを考える。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修等を通して、ICT活用や授業改善の取組について共有する。 ・ 総合的な学習の時間のテーマに対して、次年度に向けた検証や修正を行う。 ・ 各行事等での取り組みに関して、生徒たちの振り返りから効果および検証を行う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・ GIGA スクール構想がどのぐらい学校教育を変えてきたか、現場の教員は大変だと思うが、実感されているでしょうか。 ・ 教職員の中にもスキルの個人差があるのではと思う。研修等で、どの教員も最低のスキルを身に付けるようにお願いしたい。 ・ 防災をテーマにした総合の時間について、学校運営協議会としても協力できることがあれば提案して欲しい。

最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div>																	
教職員のアンケート結果より																	
<div>・基礎基本の徹底への取組に関しておよび授業改善の取組について</div> <div>◎指導力向上のために、研修会に積極的に参加していますか（%）</div> <table><tr><td>はい</td><td>11.1</td><td>どちらかといえば、はい</td><td>50.0</td><td>どちらかといえば、いいえ</td><td>27.8</td><td>いいえ</td><td>11.1</td></tr></table> <div>◎生徒の主体的な学びのために、ICTを効果的に活用している（%）</div> <table><tr><td>はい</td><td>17.6</td><td>どちらかといえば、はい</td><td>70.6</td><td>どちらかといえば、いいえ</td><td>11.8</td><td>いいえ</td><td>0.0</td></tr></table> <div>・総合的な学習の時間では、生徒が自ら調べたものを、トークイン双ヶ丘でプレゼンとして発表するなど、主体的な行動ができるような取り組みになってきた。</div> <div>・様々な教育活動の中でも、疑問や課題を生徒が考え、解決する探究活動を少しは見ることができた。</div>		はい	11.1	どちらかといえば、はい	50.0	どちらかといえば、いいえ	27.8	いいえ	11.1	はい	17.6	どちらかといえば、はい	70.6	どちらかといえば、いいえ	11.8	いいえ	0.0
はい	11.1	どちらかといえば、はい	50.0	どちらかといえば、いいえ	27.8	いいえ	11.1										
はい	17.6	どちらかといえば、はい	70.6	どちらかといえば、いいえ	11.8	いいえ	0.0										
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>																
	研究主任を中心に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んできた。各教科で教材を工夫しながら実践、そして振り返りながら改善している教員が多かった。来年度も主対深の実践研究事業を続ける予定のため、さらに教科会の充実や研修等の参加により研鑽を図る必要がある。防災をテーマとした総合的な学習は、昨年度までのものブラッシュアップもしながら、目の前の生徒や																

	<p>地域をさらに理解する形に変更していく必要がある。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業の２年目として、さらに他教科へも広げていく。また、学習に課題のある生徒も年々増加傾向にあるため、もう一度基礎基本の徹底に力をいれていく必要がある。 ・来年度から導入の iPad により、さらに教員の使い勝手がよくなると予想される。今からでも新しい教材研究や、効果的な使い方について GIGA 主任を中心として研究していく。 ・総合的な学習の時間に関しては、避難所となった時の対応など、中学生として出来ることは何かを考える取り組みになればと思う。年間計画等も徐々に見直していきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びについての成果はどのくらい出てきたのか。数値で表すことは難しいが、今後は保護者等にもわかる形で何か報告があれば良いと感じる。 ・SNS のトラブルは依然として多い。AI の進歩もあり、先生方も大変だと思うが、最新の情報等から生徒たちに正しい使い方を指導して欲しい。 ・防災をテーマとして総合学習に取り組んでいるが、理事として何ができるのかお互い考えていきたい。

（５）教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙の内訳を分析し、効率的に校務を進めることができるように、組織や取組み改善を図り、持続可能な学校組織の構築を図る。 ・前例踏襲ではなく、教育効果のあるものを取捨選択、優先順位をつけ、業務遂行を図る。
<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校行事・会議等を精選し、教職員や生徒の発想転換で取組を改善する。 ②「１８：００電話応対終了、１９：３０学校閉鎖」を全教職員で共有し、徹底を図る。 ③毎週金曜日を「エコデー」として設定し、１７：００電話応対終了、１９：００学校閉鎖」とする。 ④教職員の意見から、改革や改定が必要なものはスピード感をもって行う。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの数値 ・年休の取得 ・教職員の変容

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <div><div>① 行事の精選や削減等も行っているが、全体を通しての時間外勤務の状況は、例年と大きく変わっていない。また、45 時間超および 80 時間超の時間外勤務の人数および該当者に変化はない。</div><div>② 電話対応時刻はほぼ厳守できているため、働き方改革につながっている。</div><div>③ 部活動に関しては、京都市のガイドラインをどの顧問も厳守出来ている。</div><div>④ 行事の精選を行い、教職員の負担感は若干だが軽減出来ている感じる。しかし、一部の保護者からは、以前（コロナ禍前）のような規模（長時間）に戻して欲しいという意見があった。</div></div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <div><div>・ 若手の主任起用を促進しているが、主任としての責任が重荷になっているようで、そのことが勤務時間超過の一因ではないかと感じる。</div><div>・ ベテラン等からは、助言が成長を妨げないかと指摘等を躊躇される意見も聞かれる。若手の育成に関しても今後の課題だと感じる。</div><div>・ 電話対応時刻は保護者にも徹底され、大きなトラブルはない。</div><div>・ 部活動に関しても、ワークライフバランスを各教職員が上手に保っているようである。</div></div>

	<ul style="list-style-type: none"> 一部の保護者からは、行事を以前のような規模や時間を望む声が聞かれる。 4学区と広い校区のため、それぞれの地域の考えもあり、そのバランスを上手にとることがこれからの課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 行事等の精選も行っており、来年度以降も随時見直していく。 若手の今後のキャリアアップは面談の中で、本人の意志や意欲を確認していく。 「エコデー」の徹底。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> 出退勤システムの数値 年休取得日の数値 教職員との面談の内容
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は大幅に進んでいるようではないが、ワークライフバランスをしっかりとるようにしてください。 今後も若手が増えてくるが、働きやすい職場を目指し、生徒に向き合える時間を増やせるようにお願いしたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> 出退勤システムの数値：月残業80時間以上は、毎月2名程度。45時間以上は10名前後。 年休取得日の数値：部活動のない日や定期テスト期間中に積極的に取得。 教職員との面談の内容：健康面は特に問題ない。子育て世代が多く、持ち帰りの仕事が増加したり、その仕事を同学年の教員等が代行することもあり、トータルの業務時間の削減には至っていない。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <p>働き方改革は教職員に浸透はしているものの、何から手を付ければ良いか苦慮している状況である。留守番電話の設定や職員会議、研修時の部活停止など、教務主任による行事計画の見直しにより、少しずつではあるが時間外勤務の削減にはつながっている。しかし、行事等の精選にも限界があり、削除することに理解を示さない保護者がいることも事実である。子育て世代が年々増加するにつれて、そのしわ寄せが必ず校内の教員に降りかかる。根本的な対策は人員を増やすこと以外、現状では考えにくい。</p>
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 分掌等の見直しは来年度以降も継続していくが、現状、削減は難しく他の分掌との統合等により負担感を軽減する方法しかない。 職場の雰囲気はよく、全教職員が協力的であることは救いである。今後も教職員同士のコミュニケーションを大切にしたい。 ライフワークバランスを考えさせることも重要であるが、学校としても行事等の大胆な取捨選択が必要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>令和7年2月14日の学校運営協議会にて、理事へ「働き方改革に係る動画」視聴を行った。理事からは多くの意見をいただき、それらを下記に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市共通の（定期）テストを実施したら、作成時間の削減や成績の（他校と比較した）クレームもなくなるのではないかと、もっと給料を上げる 教員が少ないのに“一人一人を大切に”は無理がある 生徒たちや保護者に気を遣いすぎ クレーム対応のための弁護士を配置 教員も人間であることを保護者はしっかりと理解すべき 親に問題がある（勤める保育園でも同じ状況である） 仕事量を根本的に削除しなければならない 教育委員会が現場をわかっていないのでは <p>以上のように、理事の方々は現場の苦しさについて理解されており、働き方改革については、すべ</p>

ての方が肯定的であった。また、具体策も提案していただき、地域としても学校にすべてを頼る風潮を何とかしなければならないという意見であった。特に保護者の学校評価に関するアンケート（自由記述）をご覧になり、個人的な偏った要求が教員を疲弊させている現状に遺憾であるとの感想をいただいた。

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標

生徒全員が楽しく学校生活を送るために、教職員一人ひとりが「いじめ」に対する認識の向上を図るとともに、情報共有（報連相）を徹底し、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を教職員全員で組織的に行う。

具体的な取組

「学校いじめの防止等基本方針」に同じ

（取組結果を検証する）各種指標

- ① 生徒、保護者アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）の結果
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介
- ③ 保護者、教職員アンケートの結果
- ④ 生徒指導委員会（いじめ防止対策委員会）による情報提供
- ⑤ 学校運営協議会理事による学校評価

中間評価

各種指標結果

- ① アンケート「悩み事や困ったことがあったときは学校に相談していますか」では、生徒は約 6 割、保護者は約 7 割が肯定的な回答であった。
- ② 年度当初の全校集会および校長人権講話で委員会の紹介およびメンバー構成について説明した。
- ③ 全校生徒対象、保護者および教職員対象 学校評価アンケート抜粋（回答率（％））*矢印は昨年度との比較
 - 学校教育目標を意識した教育活動を行っている（教職員）
はい：33.3[↑] どちらかといえば、はい：61.1[↓] どちらかといえば、いいえ：5.6[↓] いいえ：0.0
 - 学校は楽しく過ごさせていますか（生徒）
はい：74.4[↑] どちらかといえば、はい：21.3[↓] どちらかといえば、いいえ：3.3[↓] いいえ：1.0[↓]
 - お子さまは、学校生活を楽しく過ごしていますか（保護者）
はい：54.7[↓] どちらかといえば、はい：36.6[↑] どちらかといえば、いいえ：7.6[↑] いいえ：1.1[↑]
 - 生徒は、みな笑顔にあふれ生き生きと学校生活を送っていると感じている（教職員）
はい：44.4[↑] どちらかといえば、はい：50.0[↓] どちらかといえば、いいえ：5.6[↓] いいえ：0.0[↓]
 - 進路や将来のこと、悩みごとや困ったことがあったときは、先生に相談していますか（生徒）
はい：25.9[↑] どちらかといえば、はい：31.7[↑] どちらかといえば、いいえ：25.6 いいえ：16.8[↓]
 - 進路や将来のこと、悩みごとや困ったことがあったときは、学校に相談していますか（保護者）
はい：22.3[↑] どちらかといえば、はい：46.4 どちらかといえば、いいえ：20.7[↓] いいえ：10.6[↑]
 - 本校は、家庭・地域から信頼されていると感じる（教職員）
はい：22.2[↑] どちらかといえば、はい：61.1[↓] どちらかといえば、いいえ：16.7[↓] いいえ：0.0
 - 思いやりの心をもって、同級生や先輩・後輩と接していますか（生徒）
はい：73.1[↑] どちらかといえば、はい：24.9 どちらかといえば、いいえ：1.5[↓] いいえ：0.5[↓]
 - ◎お子さまは、思いやりの心をもって、友人や家族と接しているように見えますか（保護者）
はい：51.7[↓] どちらかといえば、はい：45.3[↑] どちらかといえば、いいえ：3.0 いいえ：0.0
- ④ 定期的に生徒指導委員会やいじめ防止対策委員会、補導委員会を実施し、相談内容の共有を図り、職員会議では全体に周知した。
- ⑤ 学校運営協議会や学校ホームページにて説明・周知を行った。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>①より、生徒や保護者との信頼関係の構築が進んでいる。</p> <p>③より、学校教育目標を意識しての活動が増加しており、生徒も楽しく過ごしていると感じている。生徒同士も思いやりを持って接することができており、学校全体が落ち着いている。</p> <p>④についても、報連相を徹底しており、他学年も含めて、全教職員で情報共有を行うことが出来ている。</p> <p>上記からも保護者と学校との信頼関係は徐々に構築できてきているが、それは担任や学年教員との1対1の関係であり、学校全体でみると、PTAの加入率の低下も含め、学校全体との距離は年々広がっていると感じる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員や学校に相談しやすくなるよう、普段から生徒や保護者との関係性の構築を図るために、いじめアンケートやクラスマネジメントシート、教育相談を活用していく。 ・「いじめ（いじり、嫌がらせ）は絶対に許されない」ことは、常日頃から意識し、生徒にも徹底して指導していく。 ・人権教育の充実を図るため、校内研修等も活用していく。 ・学校生活の様子や取組みなど随時ホームページを活用して発信する。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）の結果 ・保護者アンケートの結果 ・生徒指導委員会（いじめ対策委員会）による情報提供 ・学校運営協議会理事による学校評価
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、学校を楽しく過ごしていることは評価できる。今後もそのようであって欲しい。 ・生徒や保護者との信頼関係をこれからも強いものにして欲しい。 ・若手の先生方が今後も増えていく中、保護者や地域との関係をしっかり持ってほしい。 ・地域も教員の働き方改革について理解して欲しい。

最終評価

自己評価	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>① 生徒アンケートの結果：特に大きな問題はなかった。</p> <p>② 保護者アンケートの結果：無記名自由記述のため、個人的な要望や教員に対しての心無い批判がある</p> <p>③ 生徒指導委員会による情報提供：各学年の情報を全体で共有でき、迅速な対応ができた。</p> <p>④ 学校運営協議会理事による学校評価：SNSによるトラブルは校外のことだが、注意は必要である</p>
	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談について、担任によっては重きを置かれることもあり、何より生徒のことを知ったり、小さな変化等に気づくきっかけにもなった。 ・生徒指導委員会（いじめ対策委員会）については、今年度は不登校対策委員会も兼ねており、スクールカウンセラーからの不登校生徒や気になる生徒の情報共有が主になってしまった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の実施にあたり、担任が余裕をもって準備ができるように、早期に運営委員会への提案やアンケート等の印刷ができるようにし、より効果的な活用を目指す。 ・生徒指導委員会の在り方について、いじめ対策に関しては、週1回の補導部会にて情報共有、指導方針の検討がされているため、来年度は補導部会が、いじめ対策委員会を兼ねる。それに伴い、生徒に紹介する時には、「補導」という名前は検討しなければならない。

学校関係者による意見・支援策

特に大きないじめの情報は聞いていないが、やはり SNS でのトラブルには苦慮されていると感じる。学校からは見えない校外での出来事のため、それを学校で解決するのは困難ではないだろうか。もっと保護者が責任をもって SNS の使い方を家庭で考える必要がある。地域の（小学校を）卒業生を見かけるが、よく挨拶もしてくれ、学校もしっかりとした指導をしていると感じる。